

No.109

公民館だより

平成12年1月
宮津市字由良
由良の里センター内
由良地区公民館

大師山(天王山)とお大師さん(3)

公民館長 酒田 治

由良岳、今日の顔、

明日の顔、一年の顔。

十二月十九日より二十一日ま

での積雪が、頂上附近に残雪となつて白く浮かぶ。

風は冷たく、竹藪を揺すり、

真青な空が何処までも続く。

時折思い出したかの様に、薄

雲が頂上を流れて行く。

松、杉等の常緑樹は黒々と存

在をアピールし、一方つい最近

まで目を楽しませてくれた紅葉

も、すっかり衣を脱いで、この

春美しい新緑を飾るため、寒さ

に耐え、根を張り、春の訪れを心

待ちにしている様に思われる。

さて、大師山(天王山)、の石仏

達は寒さの中でどうしているんだ

ろうか。

すつぱりと木の葉に覆られてい

た石仏も、今は落葉してしまつた

木々の間で、降りかゝる雨や雪を

直接受け、時々射して来る、太陽

の優しい光を享受し、青天の夜は、

空一杯に広がる星、満月を眺め乍

ら、松原寺の除夜の鐘が鳴る頃、

重い足を一步、一步運び天王山お

宮広場に集まり祝杯が上げられる

日を、楽しみに待っているんだろ

うか。

移り行く年月、目を細め、じつと

見つめているあの優しい眼差し。

腹の立つときはないんだらうか。

腹が立つたらどんな顔になる

んだらうか。

寒さが厳しくなるにつれ、お大

師さんの祭に巡拝した、一つ一

つの石仏の姿が脳裏を過る。

◎正月の天王山広場での会話

●由良浜に立派なマンションが

建っているのに東山、西山の下

の荒れた田、何とかならんもん

かな……

●昨年待ちに待った、「ゆらゆら温

泉」が開湯したそうやで、ゆつく

り温泉に入り、暖たまつたところ

で一杯やりたいなあ。

等、色々な会話が聞こえて来

そうな元旦の朝。

やがて大師山にも、本格的な

冬が訪れて来る。

しんしんと降る雪。

ぼたぼたと降る雪。

雪に埋もれて春を待つ石仏達

よ、何時の世からか分からない

が、由良を見守つて来てくれた

石仏達よ。

あの優しい眼差しで、これから
も見守つてほしい。

如意寺 真言宗の古刹

○虚空藏菩薩 由良岳(六四八米)の頂上

○金焼地藏 (身代わり地藏)

鎌倉前期の仏師 快慶 (多

くの優作を残す)の作

○お大師さんの祭

毎年四月二十一日



大師山(天王山)巡拝の最後に建てられている。

行事報告

主事 飯澤登志朗

◎九月五日

由良地区運動会

久しぶりの天候にも恵まれ、二年に一度の地区運動会が開催されました。

今回の開催について、

●プログラムの見直し

●小学校の全面的参加

を大きな柱として、取り組みを開始しました。

現在の年齢構成は高齢化が進み、競技の中心となる青年層の減少は顕著なものがあります。

従いまして競争の要素からお祭りの要素を取り入れたものに変更し、みんなが参加できるように検討を加えました。走る距離の短縮や人数の増減等、あるいは得点に加えない種目についても如何にするか、得点が入るから皆んな真剣に出場してくれるだからお

もしろい等意見が色々とでました。

小学校の全面的参加については、地域と学校が連携して子供達の健全な育成を図るためにも地域の最大行事ともいえる地区運動会への参加を特に要望し小学校の快諾を得て実現しました。今までも参加をお願いしていましたが、しかし午前中に一回走れば終わりの状態でしたから今回から学校側も授業の一環として積極的な参加で運動会に華を添えていただきました。

地区の運動会の開催は、公民館行事の最大行事であり、各自治会を中心に区民ふれあいの場としての実績を積み上げてきました。

内容を変更したことによつてその目的が萎むことのないよう

発展していくことを望んでいきます。

地域の老若男女が一堂に会し楽しく一日を過ごすことの出来ることは他には無く、日頃の運動不足の解消とコミュニケーションの機会づくりの場として役立つことを願っています。

成績は、第三部が総合的に力を発揮され優勝されました。

他部のそれに負けない熱意と実力に敬意を表したいと存じます。

最後になりましたが、自治連合会、由良婦人会、由良実業界及びご協力いただきました関係の皆さんに厚く感謝申し上げます。

◎十一月三日

文化祭

今年も由良婦人会のご協力により盛大に開催できました。

会場の都合で、菊花、盆栽の展示を中止しましたが同好の皆さんに誠に申し訳なく思います。

出品数は二五七点(延一八七人)を数え、趣味の広さ、深さに感嘆の一日でした。

一部にマンネリの声があることも否定しませんが文化に接する機会の少ない現代には貴重な場であり、地区の皆さんに一人でも多く参加していただけたらう企画していきたいと考えます。

今年是由良実業界の皆さんに体験コーナーとして「餅つきコーナー」を提供していただきました。

私たちが子供の頃は年末になるとあちこちの家庭から餅つきの音が聞こえてきました。

蒸気と杵音、搗きたての餅を色々な方法で食べる楽しさ、そんな雰囲気は生活様式の変化とともに薄れてきましたが今回実業会のご好意で大勢の子供たちが体験することが出来ました。

勿論、餅は早速「ぜんざい」として振る舞われました。

◎十一月二十一日

第二〇回四部対抗バレーボール大会

例年二月に実施していましたが前回の反省会で、寒くて手が

痛い、弁当を震えながら食べた、体が動かない等ご意見をいただき開催時期の検討を行いました。今年には運動会や文化祭等の他の行事と重なり十一月下旬の開催とした為、みかんの収穫期に入り選手集めが大変でした。

試合は熱戦の連続で特に男子の部は最終戦の結果で優勝チームが決定するという混戦であり勝ゲーム、勝セットとも同じ負セット数で勝敗の行方が決定するというものでした。

女子の部は、第三部が一セットも落とすことなく完全優勝でしたが勝ち負けに拘わらず和気あいあいの中、試合を楽しむチームもあり、第二〇回大会にふさわしい賑やかな一日でした。

成績は次のとおりです。

●男子の部

- 優勝 一部 二勝一敗
 - 二位 三部 二勝二敗
 - 三位 四部 一勝二敗
 - 四位 二部 一勝二敗
- (順位はセット数による)

●女子の部

- 優勝 三部 三勝〇敗
- 二位 一部 二勝一敗
- 三位 四部 一勝二敗
- 四位 二部 〇勝三敗

◎十二月十日

人権学習講座

講師に

宮津市教育委員会派遣

同派教育担当指導主事

大槻 徹先生

題名は、

これからの同和、人権教育

みんなで築こう人権文化

以上の内容で由良幼少、PTAと共催で実施しました。

大槻先生は栗田中学校に勤務されたことがあり由良地区の子供たちを良く知っておられる様子で和やかな講座となりました。

内容を一部紹介します。

世界人権宣言は基本的人権及び自由を遵守し確保するために世界のすべての人々とすべての国々とが達成すべき共通の目標として、昭和二十三年（一九四八年）十二

月十日の第三回国連総会において採択されました。

五十年を経て、廻りには同和、障害者、外国人、女性等の偏見差別がある。

同和問題は生き方を考える学習、これからどう生きてゆくか、

同和問題の解決がなければ人権問題の解決はない、無くなったという人があるが現存している、特に結婚問題にみられる。

対策事業では逆差別の意見がある、なぜ必要なのか考えてほしい、生活環境は解消の方向にあるが就学、就労の差別は解消されていない。

参加型学習について

聞くだけではなく自らが参加する学習にしたい。

これからは知識（正しい知識）技術（技能を持つ）体力（自分が好きである考え方）を養ってほしい。

相手の意見を受け入れる力。相手に伝える力。

遠い相手を認める力。

受け入れる力。

相手に対する思いやり、自分らしく生きる力。

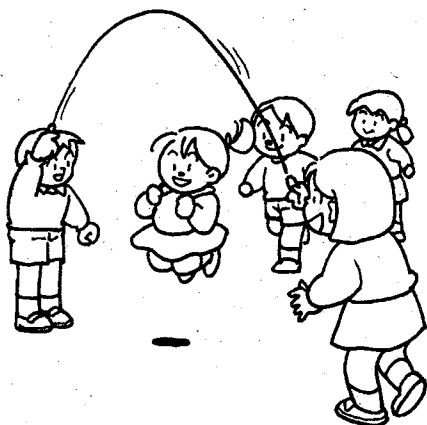
ほんの一部の紹介になりましたが、由良小学校児童の作品を紹介し報告に替えたいと思います。

●いつしよにあそぼ

みんなであそぼ

●気づこうよ

友のだしているSOS



「総合的な学習の時間」の創設

由良小学校 校長 水谷 洋子

二千年という千年紀を迎えました。本年は、二十世紀最後の年でもあり、すでに二十一世紀へ向けてのカウントダウンの始まりでもあります。

教育界で大きな変動は、何といつても平成十四年より始まる学校週五日制の完全実施と新しい教育課程の実施といえます。

新教育課程では、ゆとりある生活、ゆとりある教育活動の中で生きる力を育むことを目指しています。

とりわけ、「自ら学び自ら考える力の育成」を重視し、特色ある学校づくりを進めることが求められています。

その中心となる教育活動が、新しく創設される「総合的な学習の時間」です。

この「総合的な学習の時間」に

は、国語、社会、理科、算数などの教科や道徳、特別活動のよう、各学年でこのような内容を習得するようにといったことは示されていません。

教育課程における新しい時間ではあるけれど、内容や活動は学校の創意工夫に委ねられているのです。そして教科ではないので教科書はありません。

総合的な学習は、これまでも部分的に学校行事や特別活動、教科や道徳の時間を活用して実践してきています。

例えば、算数オリエンテーリングです。

これは、算数の時間に学習した問題を解決するための知識や技術を使って、由良駅、由良神社、如意寺などの名所旧跡や由良の浜辺を学習の場として、そ

の地にちなんだ学年問題を作成し、体験的に問題を解いていくというものです。

地域の特徴を生かして算数の学習の「知の総合化と生活化」を図つたものです。

また、学年でも取り組んでいきます。

ふれあいフェスティバルです。地域の高齢者とかかわりについて考え、自分たちに来ることを計画し、高齢者の人口調べや高齢者の願いを調べ、高齢者の知恵を学ぼうという実践でした。

この学習をとおして、子ども達は、自ら考え、学び行動しようとする姿勢や気付きが見られただけでも、調査したことをまとめるまとめ方や、発表の仕方などは、教科の時間にしっかりと身につけておかねばならないことも分かりました。

このように、部分的には、教科や道徳、特別活動で取り組んでいましたが、これからは、教

育課程に位置付けて、計画的に、組織的に、継続して、「総合的な学習の時間」として実施することになります。

本校でも、平成十四年から全面実施に向けての移行措置として指導計画を作成し、実践を試みていきます。平成十三・十四年度中に指導計画に沿って実践し、指導内容・指導方法を確立したいと考えています。

指導体制については、現在も地域の皆さんに講師をお願いしているのですが、今以上に、様々な分野での活動の支援をお願いしなければなりません。

保護者や地域の皆様方のご理解とご協力をいただいで、指導計画の実施に必要な技能や経験をお持ちの皆さんに、講師としてお世話になりたいと考えております。また、その節にはご無理を申しますがよろしくお願いいたします。

六年ぶりの運動会

公民館 体育部

二回も雨で流れてしまった運動会。今回こそは、お天気の神様も見離さなかつた様です。

運動会に向けて以前よりウォーミングアップされていた方々にとつても、絶好の日和となりました。

今年は、小学生も参加とあつて大変賑やかで楽しい運動会だったと思います。中でも低学年の皆さんによる、「げんき体操」や「鳴子踊り」はかわいらしくさらに華を添えてくれました。

またマラソンにつきましたは、その日一日にして成らず、日頃の地道な努力がおうかがいできる競技です。そんな大変な競技に大勢の方にご参加いただき、本当に有難うございました。ゴールして来られる皆様のお顔の輝きには、心より感動させて

いただきました。

そして、実業会の皆様には、売店を出していただくことで、本当に賑やかで、活気にあふれいっそう楽しい運動会となりました。有難うございました。

運動会は二年に一度(今回は六年に一度)、由良地区の広い年令層の皆さんとグラウンドでお顔を合わせる事が出来、また皆さんの日頃見られない一面も覗かせていただける大イベントです。競技されているお姿は、本当に頬笑ましく、笑顔あり、真剣な眼差しあり、すばらしいものだと感じています。

運動会が大好きな方、少し苦手だけど応援なら楽しいと言われる方、また、次回の運動会も是非と由良地区活性のため、ご協力いただきます様どうぞよろしくお願ひ致します。

また役員に付きましては、念入りな打ち合わせを致しておりますが、行き届かずご迷惑をお掛けしてしまふこともありましてお詫び申し上げます。

今年も大盛会で無事運動会を終えることが出来ましたことは皆様方のお陰だと思つております。本当に心からお礼申し上げます。有難うございました。



第十七回

市民卓球大会参加結果

去る十二月十二日(日)宮津市民体育館に於きまして大会が開催されました。

由良地区からの参加者及び成績は次のとおりです。

◎団体の部A級 三位

選手 川崎 清 中西一義

日比道栄 岸田 論

◎個人の部

一般男子(A級)

三位 川崎 清

一般女子(A級)

準優勝 日比道栄

小学生女子

優勝 日比亞紀奈

準優勝 日比亞沙美



宮本の芸屋台

平成十一年十二月

宮本自治会長 柁岡 豊

西暦二千年、平成十二年を迎えようとする今日からいとうそ

の昔由良村は宮津市に合併するに伴い宮津市由良となりましたが、同時に東崎村と松下村の二村が合併して宮本になりました。

従つて宮本には旧東崎と旧松下の夫々が所有していた二台の芸屋台が、由良神社境内の収納庫に保存されています。

私が小学生の頃だと思いますが、由良神社の秋祭りでしょうがこの屋台の上で着物姿の女の子が踊つたりしたのを見たように思います。もう五・六十年前のことです。以来そういつたものは見なくなりました。

さて、この芸屋台には舞台を飾る幕と屋台の後尾を飾る「見送り」と稱する垂れ幕があります。

実は今年、久しくやっていな

かったこれらの屋台衣装の虫干しをする計画がありました。

丁度、八月十四日盆の行事である四部対抗野球大会のあと公民館で出場選手が集まつての慰労会の席で宮本には二台もの立派な芸屋台があるが知つているか、と聞くと全員が見たことがないとの返事でした。

宮本のこれら青壮年が宮本の芸屋台を見たことはないということに驚きました。が是非もないことでした。組立てて飾つたことがないからです。

よし、華やかな屋台の巡行はともかく一度も見たことのない芸屋台をこの際何とか見てもらいたいと思ひました。

これを見たことのない人は青壮年だけではなく他にもいる筈でした。

屋台衣装の虫干しを九月十二日の日曜日にて定め大勢の手伝いを呼びかけて始めました。

幸いにも旧松下が所有していた屋台は車輪が付いたまま収納されていきました。

二台分の屋台衣装を広げて虫干しすると共に収納庫から一台の屋台を表に出し組立てるのですが図面もなく解らない者ばかりが知恵を出し合いやつと昼過ぎに何とか組上げることが出来ました。

何十年振りかで磨きをかけた屋台は樺造りの立派なものでした。下部に入つてみると台車の内側に、

明治二十八年九月新調
世話方

三森西之上 沢井 勘藏
田中市五郎 浜中留治郎
区長 田中市五郎
大王 藤木 徳藏

彫刻師 ○○○○
丹波國氷上郡柏原町
(車輪の陰で不明)



と墨で書かれています。約一〇五年、一世紀以上の歴史を刻んだ屋台です。

屋台の寸法を計測すると巾二、四米、奥行三、八米、高さは屋根まで四、一米、見送棒の先端まで四、七米です。

屋台には至る所に乗馬姿の源義経の鴨越ヒヨドリゴエの合戦等あざやかで素晴らしい彫刻で飾られ、見送り幕は赤字に空を飛ぶ金龍を月輪熊が見上げるといふ構図がこれもまた立派な刺繍で描き上げた見事なものでした。

午後から磨き上げた屋台に見送りを取付けると、何十年振りの芸屋台再現に全員が異口同音に感嘆の声しきりでこんな始めてみた、こんな立派な素晴らしいものが何年もの間この収納庫に眠っていたのかと感激もひとしおでした。

こうして屋台衣装の虫干しを兼ねたお披露目は予定通り終わりましたがどうせなら秋祭りにも出そうと一致した希望でこ

れも何十年振りの宵宮を賑わすことになりました。

いよいよ十月八日再度朝から祭本番に向けて組立を始めましたが、今度は簡単に組上がりました。九日午後七時からの宵宮には芸屋台の周りに紅白の提灯を取付け一段と華やかなものになりました。

屋台提灯に灯が入ると屋台の上や前に並べた太鼓に向かつて十月一日から始めた子供達や青壮年の祭太鼓の練習成果を披露すると共に子供会や奥様方の協力を得て甘酒を振舞い大勢の人々に来ていだいて近年始めての賑やかな宵宮を楽しむことが出来ました。

祭当日には車輪の不安もあり町内巡行とまではできませんでしたが神社境内においた宮本の芸屋台を由良は元より近隣の来訪者にも見ていただくました。

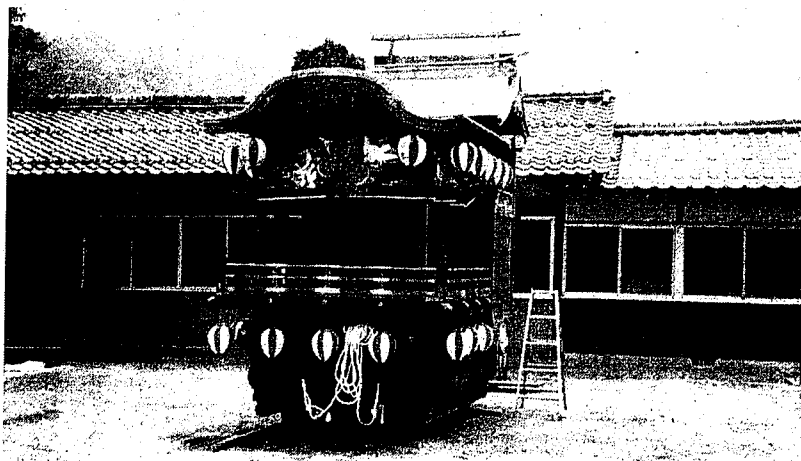
又、十月八日にはこの屋台の噂を聞いた朝日、読売、京都の三新聞記者の取材を受け九日の朝刊には宮本の芸屋台として大きく報じ

られ近隣にまで大きくアピールする結果となりました。

宮本には前記のとおりもう一台の芸屋台が保存されていますが屋台の車輪は木製で外側に鉄製の輪がはめられています。乾燥していらくと鉄輪がはづれるため常時は水の中で保管するのですが、もう一台の屋台の車輪はその保管中に行方不明になっています。何とかこの二台共の車輪を巡行に耐え得るものに整備し二台の芸屋台が華々しく巡行する姿を見たいものと同願つているところです。

最後になりますが、こうした催しを実行することで宮本地区の活気と協和にも大いに成果があつたとよろこんでいます。

これに協力して戴いた皆さんに厚く感謝し御礼申し上げます。不景気の昨今、来年も屋台で大いに盛り上がりたいた願っています。



山椒太夫伝説を「佐渡の旅」に求めて

山田 暢子

「由良の歴史をさぐる会」には、「歴史を楽しむ会」と同義語の趣がある。知識満載の先輩諸氏の話にもつれながら同席させていただく例会と、年一度の旅を笑壺にはまる楽しさも含めて、とても大切に思っている。

十月十一日由良祭の翌日、厨子王丸がお母さんを探し訪ねた「佐渡ヶ島」へと出発。「雷鳥」「はくたか」と乗り継ぎ、直江津駅へ午後一時四十四分着。

私たちが旅行に出る二日前、能「婆相天」の公演で直江津は盛り上がり過ぎていたらしい。「婆相天」は、姉弟の名前も母の名前も出てこないが、内容は「山椒太夫」そのものと聞く。近年演じられなくなった能「婆相天」を蘇らせた実行委員のおひとりで佐藤和夫氏の案内が得られ、

フェリー乗船までの二時間は、貴重この上ないものとなった。

上越市の中央を流れる関川。その河口の東岸は直江津港、西岸に「安寿姫と厨子王丸の供養塔」と大きく明記されて寄り添う二つの塔。傍らの由来板に

「身を投げた召使の姥竹と安寿姫の供養塔である」と記述。姥竹と厨子王丸が平然と入れ替わった表示、おやおやと思ひ遣る。

少し歩き、逢岐の橋（応化の橋）に向かう。近代的な真新しい橋の欄干に、畳一帖よりも少し大きくレリーフが飾られている。小舟に乗せられた安寿と厨子王丸が、離されていくお母さんに向かつて泣き叫んでいる銅板のレリーフの絵柄のリアルさは、何故か切ない。人を売つての名人「山岡太夫」と出合ってしまった

逢岐の橋。ここから物語が展開し、安寿姫ら一行の悲運が始まったとの想いに哀感が過る。

驚いたのは、子孫が密かに建てたという山岡太夫の墓のころ。いつの頃からかおこり（マリア）に効能があるとされ、妙国寺の境内にある太夫の墓「山岡神霊位」の前で人々は手を合わせたという。小さくて朽ち欠けた碑の前に手向けられる花は、今も絶えたことがない、との佐藤さんの説明どおり、黄色の小菊が揺れていた。

フェリーの出航に合わせるかの様に、サーモンピンクの夕焼けが海までも染めて美しい。「きれいだなあ」と私たち一行はいつまでもデッキから離れられないでいた。

小木港のすぐ前の宿「喜八」へ午後七時着。デザート樽柿があまりにもおいしいと隣席に手をのぼしたりし、いつもの様に冗談の飛び交う楽しい夕食で舌鼓。

翌朝、宿の近くの民族博物館、美術館、千石船展示館を見学。路地の小さな郵便局に飛び込み、「ふるさと切手」の「トキ」と「花嫁」を買う。

誰もが知る遠流の地佐渡ヶ島は、古い歴史的背景から生まれた豊かな文化に満ち溢れている。王朝、武家、江戸文化がうまく伝承された、高度な佐渡情緒を行く先々に感じる。

大膳神社の茅ぶき屋根の能舞台は、少し離れて正面に貴賓席を設けた別棟があり、威風堂々と辺りの風景を包み込んで美しい景観である。佐渡には能舞台が簡易なものも含め三十四ヶ所もあり、毎年六月は毎日どこかで能が上演され、佐渡へ集う観光客で騒然とするらしい。

それにしても博物館、美術館、資料館の多さには感心する。佐渡出身の日本画家、土田麦麿の「素描コレクション」の中に、艶めかしい「湯女」の下絵があった。日本画、洋画を問わず素描画

には、侵し難い魅力がある。

新潟県佐渡郡相川町大字達者という地名を訪ねる。「安寿伝説にまつわる盲目の母と厨子王が再会し、互いの達者を喜び合った」という由来から地名「達者」となる」とある。山側へしばらく行くと、安寿伝説ゆかりの「目洗い地藏堂」。「盲目の母が湧き出る清水で目を洗ったら見える様になった」と記述あり。

二日目、相川町での宿は「道遊」。夕食後「シルバールビレッジ」で「佐渡おけさ」の踊りが見られるというので全員送迎バスで向かう。正調の「佐渡おけさ」「相川節」「相川音頭」を曲ごとに即時衣装替え、ご年輩の男性六名の息もぴつたりと熟練された踊りの粋、面を付け勇壮な「鬼太鼓」などやんやの拍手。木戸銭八百文何の其の。

旅も最終日の朝、笑いの絶えない楽しい雰囲気、笑いの絶えず、まるで疲れるということがない。

佐渡金山の迷路のような坑道跡を見学。労働者の顔、格好は、あちらもこちらもコンピューターで動く人形全て、各セクションで生き生きと、嬉しくなるほど精巧に出てくる。尖閣湾遊覧船・海中透視船では、波浪で浸食され奇岩となった断崖風景や、海底の景色を楽しむ。

畑野町にある「安寿塚」は、時間的に無理だろうというのを「行きたい！」と駄々をこね、ごね得だったかなと今に思う。

民家に囲まれ、いい案配の「安寿塚」。「安寿姫と厨子王丸が二人で母を探しに佐渡を訪ね、母と喜びの再会後、すぐに安寿姫は永い間の苦労から衰弱がひどくなり、この畑野で息を引き取ったと言われている」と、由来板に記されていた。四坪、もう少し大きいだろっか、椿、椎、桧などの大きな木々が、あたかも塚を守るかの様に林立し、雰囲気の良い有り様である。如意寺の和尚さんがお経を、四方先生はしきりにシャッターを切っ

ておられる。やさしく心覚えのある風景として忘れられない。

昨夜「佐渡おけさ」に拍手を送った「シルバールビレッジ佐渡」で昼食後、佐渡文弥人形芝居「山椒太夫」を鑑賞。「義経千本桜」の予定を、私たち一行のために演目を急ぎよ「山椒太夫」に変更して下さった由。――「安寿姫が佐渡で漸うにして母を探し訪ねる。盲目の母が鳥追いをしていると、村の悪童どもがいつもからかう。安寿が声を掛けると母は、悪童ども奴！と杖で安寿に打ちかかり、安寿は死んでしまふ」という内容であった。安寿への愛憐の想いの強い佐渡に異論のあるうはずはないけれど、丹後の由良の住人としては、どうも納得がいかない。「山椒太夫の物語では、厨子王が母を見つけることになっているのです」と、舞台終了後、人形使いの女性の方に問うてみた。さすが「いいえ、厨子王は佐渡には来ていませんよ」と返答。

いやはや「伝説」というものは、「山椒太夫」の物語の最後の部分は、佐渡へ来てすつかり迷路に踏み込んだ感がある。佐渡の安寿伝説を私なりに面白がっているが、頭はすでに混線状態なのだ。しかし、歯痒いところがあるからこそ「伝説」なのだ、納得しないことには、私の物語が終わらない。

暮れ方の佐渡両津港から新潟港まで、夜の航路は一行のパワフルなおしゃべりで弾む。新潟駅午後十時十九分発、急行「きたぐに」の寝台車に身を委ねる。丹後由良へは朝帰りとなり、「歴史をさぐる会」の若さを垣間見るよう。

月佐渡へ佐渡へと、草木もなびくよと、「佐渡おけさ」に唄われている様に佐渡になびいて、佐渡の「安寿」に嬉しく翻弄されて、今、私は旅の醍醐味をかみしめている。

中西和久ひとり芝居

「山椒太夫考」宮津公演を取り組んで

宮津・与謝実行委員会
由良実行委員会

事務局 大 森 章 弘

公演当日は青空の気持よい晴

天でした。二時の公演に十一時過ぎには由良の皆様が来場を始めた。力強い味方と思わせていただきました。会場案内の看板を四ヶ所に設置して一時半頃会場に戻つてみると、正に続々と来場者がありました。公演が始まつてからも来場する方があり、我々の予想を上回る皆様にお世話になり、成功を収めることが出来ました。皆様お一人お一人のご指導、ご協力がなければこの成功はなかつたと考えております。僣越ですがこの紙面をお借りして皆様に、心よりお礼を申し上げます。

丹後郷土資料館の伊藤先生からこの芝居を地元で公演してはどうかと紹介された中西洋一氏から説明、相談を受けたのは確か平成十年正月のことと思います。以来出会えば宮津や由良の町起しが主な話でした。公演を宮津、いや由良でやれないか、採算は、方法は、時期は、といった様なことも語り合いました。私は採算面の危惧から乗り気ではありませんでしたが、氏は東京の京楽座へ出向いたり、中西和久氏と出会ったり、情報を集めたり、じつとではいませんでした。

日には野田川町ワークパルにて和久氏の講演や三味線の演技映画が催されたりしてすばらしい演技を再認識しました。しかし、地味な、普段見慣れないこの芝居にはもう一つ踏み込めませんでした。

しかし、一人で平成十一年十一月公演の準備活動を続けている氏の姿に傍観者でおれず協力を始めたのは十一年二月でした。四月には地元由良の皆様のご指導を戴きたく、市会議員及び自治連、公民館、婦人会、実業会、観光協会、歴史をさぐる会等の代表に計りましたが十一月実施は準備期間等慎重論から今年は見送りとの決議となり、断つたところ、どうしても地元でやりたいという和久氏の熱意ある要望を無視することが出来ず、熟慮の末、前述のメンバーで準備会を発足させました。出来るだけ多くの皆様のご指導、ご協力がなければ公演を成功させることは出来ない、六月十三日に

由良実行委員会を設立していただきました。

次いで六月二十一日は、新能宮津公演を取り組んでおられる最中にご無理をお願いして、宮津・与謝実行委員会を設立していただきました。その他舞鶴市内等の団体にも協力いただき、多数の皆様から成る実行体制が出来上がりました。

事務局員の洋一氏と私は公演に向けて二人で活動することが多くありましたが、和久氏のプロフィールや一人芝居のチラシ、各事務局員の名刺を作ったり、時には「山椒太夫伝説旧蹟めぐりのしおり」を使いました。

数々この公演に向けて皆様にお世話いただきましたが、ここに数例上げてみます。

一つは、前述の伊藤先生に、説経節「さんせう太夫」を読む会の講師をお世話になりました。九月十六日、九月三十日、十月十四日の三回、宮津福祉センターで実施し、各回とも多数の参加

観劇後の感想は「感激」「感動」「すばらしかった」等のお言葉を数多く頂戴し、本当によかった

平成十年十一月八日にはNHKテレビ芸術劇場でこの芝居が全国放映され、文化庁芸術祭参加作品となつたり、同月二十六

がありました。

二つは、「山椒太夫」ゆかりの地を訪ねる会を地元のパスを借用して、十月三日に実施しました。講師を四方先生にお世話になり、これも多くの参加がありました。

三つは、公演前日の十一月六日と七日午前中に「身代り地蔵」特別公開を、如意寺様にお世話になりました。このお地蔵様は有名な快慶の作で京都府の重要文化財に指定されています。

四つは、丹後郷土資料館で「安寿と厨子王―山椒太夫の世界―」として、江戸時代の錦絵や挿し絵入りの書物など約三十点を展示していただきました。(期間平成十一年十一月四日〜平成十二年一月十日)

五つは、公演が終わってからです、「山庄略由来」の学習会が丹後郷土資料館でありました。これは由良の米屋(大森)甚平家に、江戸時代から伝えられている版本による山椒太夫の

物語です。講師は伊藤先生で、二回実施されました。

これらの取組や公演については各種新聞(京都、読売、朝日、毎日、舞鶴市民等)、情報誌「タウンタウン」「てんころ」等に写真付きの記事として、又情報誌「えふ」に情報案内を掲載されました。宮津瓦版には拙稿を載せていただきました。その他公立教職員互助会と謝支部で、案内とチケットも取扱っていたいただきました。

公演に向けて比較的短期間の準備活動の中で何ら補助金もないところ成功できたのは、危機感を持ってチケットを売り歩いてくださった皆様のご努力のお陰です。力を合わせて頑張っていた「大きな力」を見せていただきました。「ああ、よかった」「本当によかった」の思いは帰宅してからの「こ苦労様でした」の慰労や「よかったですよ」ただで終わらずに、このすばらしい文化財等を語り、守り、伝承していつてほしい」等々電話をいただきました。本当にこ

の説経節や山椒太夫伝説等は私達の貴重な文化遺産であります。今後も大切に守り、伝承していかねばならないと思います。

お陰様で公演の収益をお世話になりました。遺跡等の看板を立て直させていただきました。ご了承の程よろしくお願い申し上げます。



文化祭

瀬田直子

公民館行事の一つ「文化祭」が今年も十一月三日(水)に行われました。好天に恵まれましたが早朝には風があり冷たい日でした。婦人会も例年同様、バザー、うどん、ぜんざい等で参加致しました。

役員全員八時集合、地域の皆様方から余剰野菜、干物、雑貨等々沢山の品を提供して頂き準備の段階より買って頂いたりの中、オープン。

会員さんの販売ぶりもなかなかのもので、ふれあいの中、全商品の販売終了となりました。

また、うどん、ぜんざいの方はというと、役割分担を決め準備に取りかかりました。前日より本部役員によります下準備から始まり当日にそなえて頂いておりましたので、当日は、ねぎ

をきざんだり、かまぼこを切ったり等の準備、また、食べて頂く部屋にお花を飾り、器をそろえて準備、持ち帰りとその場で食べて頂くものに分けたりと準備は着々と進められました。熱気で活気のある調理室でした。

また、今年、実業会によりますイベントとして「お餅つき大会」が実施され、子供達が参加して一段と花を添えて頂きました。

そしてそのつきたてのお餅をぜんざいに入れて、センターに來られたお客様に食べて頂くことが出来ました。

「うどん一つ、ぜんざい一つ」等調理室に響き、一生懸命自分の役割を果たしていきました。

お昼の時間帯に近づくにつれ座る所もなく、順番を待つて頂

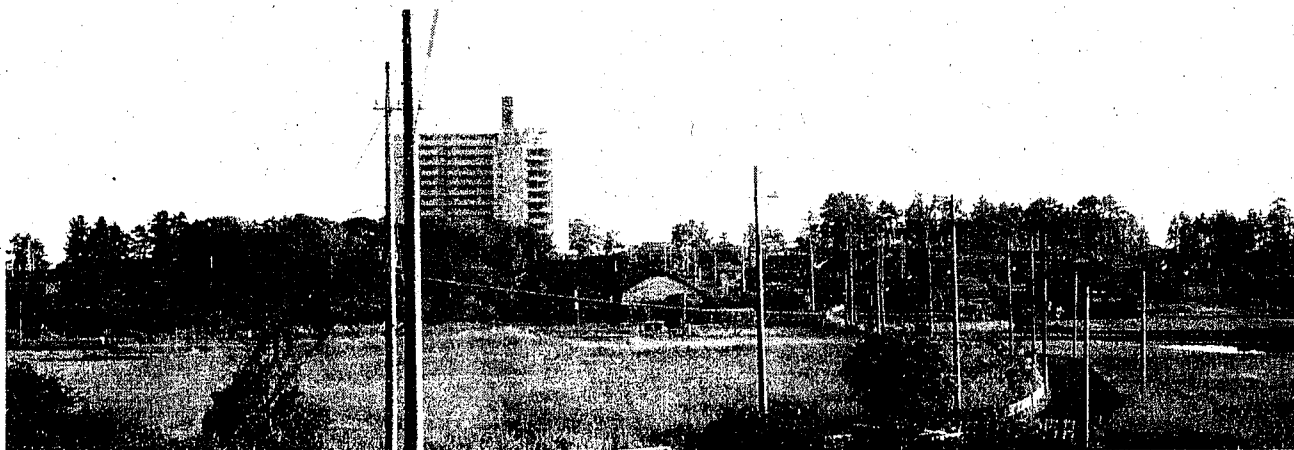
く方、また、持ち帰りの方等一時は長い行列が出来るほどで、皆様には大変ご迷惑をおかけしましたが、何とか無事終えることが出来ました。

「おいしかったよ」「ちようど良いお味でしたよ」「こちそうさま」等々お声をかけて頂き、とてもうれしく感激しました。本当にありがとうございました。

接待の合間に二階でのすばらしい展示を見せて頂きました。絵画、書道、写真、生花、手作り作品等、どの作品も本当にすばらしい物ばかり、皆々様の趣味の多さに大変感動致しました。

また、和室のお茶席では、おもてなしを受け不作法な自分でしたが、束の間のひととき緊張感を味わわせて頂きました。とても充実した一日でした。

今後共、婦人会活動におきまして地域の皆様様のあたたかいご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます、ありがとうございました。



四部対抗バレーボールを終えて

一部 縞田 一 則

恒例となつている四部対抗男女バレーボール大会が、今年十一月二十一日開催された。

例年は真冬の二月最初の日曜日が大会となつていたが、あまりの寒さと健康の事など、もろもろの事を考慮の上、役員一同熟慮の上右期日となつたわけである。

しかし、いざ開催となると、一部地区においては、農作業最盛期と重なり、選手集めに非常に苦労するといった問題が浮上し、今後の同大会の開催期日については、改年以降は再考を要すると思われ、体育委員全員で良い知恵を出してもつとも良い時期を設定していく様にしたきたい。

さて試合については、榎本氏の、非常に親切で、体も気分も

ほぐれる、ストレッチ体操で始まり、例年のごとく男女とも、なごやかに、楽しく行われた。

各地区男女とも開催にあつては、選手集めに苦労された様であるが、それでも皆さんのご協力により、選手集めに成功し開催する事ができた。

試合はいつもより暖かつたせい、各地区選手とも体が、例年より動きやすかつたようで男女とも、接戦が多く、二セット連続で勝つとか負けるとかいった一方的な試合は少なく、三セットまで進んで二対一といった試合が多かつたようである。

ただそれだけに一試合の試合時間が長く普段運動する事が少ない各地区の男女とも、体力が衰えているのか、息を切らしながら真っ赤な顔をして大健闘であつた。

また、試合中は男女とも、自地区、他地区の選手を応援しながらも普段はあまり顔を合わせない事が少ないこの機会にと、世間話に花を咲かせ、皆なごやかに大変楽しそうであつた。

さて試合結果については、男子は一部、女子は三部が優勝するといった結果となつたが、前述のように接戦、接戦の連続で、どの地区が優勝してもおかしくない状況であつた。

我々男子脇チームにあつても例外にもれず、二対一の連続で大接戦の末、わずかの差で優勝させていただいた。

各試合を観察して気づいた事であるが、レシーブ、トス、スパイクといった、バレーボールのセオリーにとらわれすぎて、その間にミスつてしまふといった点が多く見受けられたので、セオリーにとらわれすぎず、相手の動きを見て試合展開していけばもつと楽に点を取る事が、できたのではないかと思う場面

が多くあつたが、常に練習しているわけではないので、これは実際に戦っている選手にとつてはむずかしい注文であろう。

試合結果はともかくとして、各チームとも、わきあいあいとゲームが進行し、体調をくずしたり、負傷するといった人もなく、大会は成功に終わったと思う。

最近、人と人とのつながりが、都会に限らず、地方においても希薄になつている現在においては、大会を設定していただく、大会役員さんは、非常にご苦労さんであると思うが、こういったスポーツ大会を、年に一、二度開催するといった事は、大変有意義な事であると思う。

我が脇チームもまた来年も優勝の美酒に酔える様、今から秘策を練つて来年度に備えたいと思う。



バレーボール大会に参加して

大森 祥代

電話を頂き、参加できることが決まりうれしくて、とても楽しみだったんですが、体育の授業程度しかやっていないので、足を引く張るのではないかと不安もありました。

自分が小学生の頃は応援に行き、やりたいなあと思っていた時があり、懐かしい気もしました。

九人制ルールで人がコートの中にたくさんいるので、自分が守らなければならぬ場所が少なく、それによつてボールが下にあまり落ちなくなり、ラリーが長続きしておもしろさが増します。その反面、誰が取るか迷い「おみあい」の姿あり、声をかけあつていました。

ボールの経験のある人がいて、スパイクを打たれると逃げたくなるような時もありましたが、見事全勝し、今回で九連勝だそうです。

このチームに入つてみて思ったのは、チームワークが良く、楽しんでやろうとみんなが思っているので、私ものびのびと、バレーボールを楽しむことができました。次は十連勝目指して頑張りたいです。

しかしそれ以上に、やったことのある人も、ない人も楽しんでスポーツができ、地区の人々との交流も深まればいいと思います。

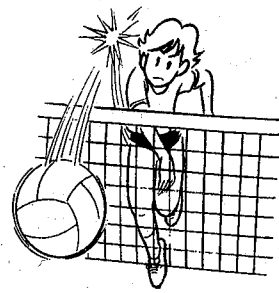
それと私が昔、やりたいと思つてきたように、やりたいと思つている人もいると思うので、いろいろな年齢ごとにするとか、バ

レーボール以外のスポーツが入つてもいいなと思いました。もつと多くの人が参加したり応援したりして、活気がある大会になれば、より楽しくなると思います。

川柳

宮津番傘川柳会

大森 美智子



曼陀羅の中ほどにいる父母よ

愛て何だろろう家族で囲むお味噌汁

サルビアの赤に奮起を促され

木漏れ陽を抱いて育つこぼれ種

哀歎の涙故郷へ橋を架け

頬杖に幻影を追うストレスか

飯 沢 鳴 窓

地域の皆様へ（ご挨拶）

デイサービスセンター「はまなす苑」
在宅介護支援センター

施設長 向 仲 喜 裕

平成十一年十月二十二日に、
ここ由良地区に「デイサービスセンター」及び在宅介護支援センター「はまなす苑」が新たに開設されました。地域の皆様方には工期中も含め、開苑前よりいろいろとご迷惑をおかけし、また、開苑後につきましても、本施設の事業推進に関して、格別のご理解とご支援を賜り、心よりお礼申し上げます。

本施設は、「宮津市老人保健福祉計画」に基づき、由良・栗田地区をサービスエリアとして、在宅福祉の向上を図ることを事業目的としています。もう少し具体的に申しますと、「デイサービスセンター」「はまなす苑」については、在宅の虚弱老人等に対し、通所の方法により各種のサービスを提供することによつ

て当該老人の自立的生活の助長、社会的孤立感の解消、心身機能の維持・向上等を図るとともに、その家族の身体的・精神的な労苦の軽減を図ることを目的としています。また、在宅介護支援センター「はまなす苑」につきましては、在宅の要援護高齢者等に対し、「在宅介護」に関する総合的な相談に応じ、そのニーズに対応した各種の「保健・福祉サービス」が受けられるように各関係機関との連絡・調整等の便宜を提供し、家族等の福祉の向上を図ることを目的としています。両施設とも設置主体は「宮津市」ですが、運営は「社会福祉法人北星会」が宮津市により委託を受け、これに当たっています。開苑してから二ヶ月余り経過した現在、「デイサービスセンター」「はまなす苑」では、性格上、小規模

型「デイサービスセンター（D型）」ということ、利用定員は一日当たり概ね八名程度ですが、家庭的な雰囲気のもと、週に一度由良・栗田地区の六十七歳から九十六歳までのお年寄り五十六名（平成十一年十二月二十五日現在）の方にご利用頂いております。職員も、ここ二ヶ月余り、毎日毎日「暗中模索」のなか「試行錯誤」の繰り返しで、お年寄りの方や家族の皆様には大変ご迷惑をおかけし、申し訳なく思っておりますが、職員一同、日々新たな気持ちで、一人でも多くのお年寄りの皆様に、「豊かで生きがいのある老後」を送って頂けるようにと、お年寄りの「笑顔」に励まされながら、精一杯頑張っているところで、在宅介護支援センター「はまなす苑」でも、「あんしん介護の窓口」として、「在宅介護」や「介護保険」に関するあらゆる相談等について迅速に対応できるようにと、情報等の収集や提供に努め、

地域の皆様方のご来苑をお待ちしております。

平成十二年四月からは、皆様ご承知のように、「介護保険制度」が導入され、老人福祉施設は、従来の「措置型福祉」から「契約型福祉」への転換が迫られています。多様な社会福祉サービス供給主体との競争が予想されるなかで、「はまなす苑」が、地域の皆様方から真に愛され、信頼される施設、そして、選ばれる施設であるため、職員一同より質の高いサービス、満足度の高いサービスを提供できるよう、「地域に開かれた施設」を合い言葉に、より一層努力していく所存でございます。

今後共、地域の皆様方の暖かいご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



三冠に輝いて

話し手 大森 祐子
聞き手・文 中西 夏江

野田川町三河内の府立加悦谷
高校合唱部が、平成十一年十一
月に、オーストリアのウィーン
でひらかれた「第十六回フラン
ツ・シューベルト国際合唱コン
クール」で総合一位(最優秀賞)、
シューベルト演奏特別賞、女声
合唱部門一位の三冠を獲得され
ました。このことはすでに新聞、
テレビの報道によつて周知のこ
とですが、この見事な合唱部の
中に、由良の大森祐子さんが副
部長として活躍なさつていたこ
とを知つて驚き、お話を聞かせ
て頂きました。

——今回の三冠達成、おめでと
うございます。ところで由良
から加悦谷高校までの通学は
朝も早いですか。

大森「由良駅を六時四十分発、学
校へ七時三十分に着きます。」

——歌の練習の様子を聞かせて
下さい。

大森「授業が終わつて四、五月
は三時四十五分から六時七
時頃まで、コンクール前にな
ると八時九時頃まで、日曜
日にも練習に出かけます。」
——凄いですね、部員は何人で
すか。

大森「三年生が十三名、二年生
が十四名、一年生が二十一名
の計四十八名です。」

——ウィーンへ行かれたのは、
指揮者の先生と、ピアノ伴奏
の先生と四十八名の方ですか。
大森「いいえ、OBの女性七人
の方も、私達合唱部と一緒に
歌つて下さいました。そして、
校長先生、その他にOBを含
む父兄の方三十名程が応援の
形で同行して下さいました。」

——ウィーンには、前にも行か
れたそうですね。

大森「平成九年で、そのときは
総合一位、女声合唱部門一位
でした。」

——素敵ですね。今回の様子を
話して下さい。

大森「十一月九日朝出発、関空
から塔乗、飛行機がドイツで
給油、ウィーンには夕方に着
きました。」

——向こうでも練習でしょうか？

大森「十日の午後ホテルで午後
二時から途中夕食を挟んで十
一時まで練習しました。十一
日は一日中練習を続けました。」
——そして愈々本番ですね。

大森「十二日、会場はコンツエ
ルトハウスでした。日本の二
団体を含めて七カ国九団体の
合唱団でした。私達加悦谷高
校は、最年少でした。」

——トップレベルの勢揃いで緊
張されたでしょう。ところで、
出場順は？

大森「くじで最後でした。出場

までの間はずつと別室で練習
をしていました。」

——当日の課題曲は？

大森「シューベルト作曲の『詩
篇23番 神は我が牧人』でドイ
ツ語で歌います。この一曲は
五分です。それから、ラテン
語の曲、ハンガリー語の曲、こ
れらは一曲一分から二分位で
す。」

——発音、発声、そしてハーモ
ニー、緊張の連続ですね。

大森「十三日は自由曲として、東
北地方の童歌『ほたるこい』
『こんこんさま』『狐のうたよ
り』の日本語の三曲を歌いま
した。」

——連日ご苦労様でした。

大森「この十三日は、午前中で
終わりました。そして夕方四
時頃に集合して審査結果の発
表を聞きました。」

——全身が熱くなつたでしょう。

大森「キョウト カヤダニ」と
独特のアクセントで呼ばれた
時は、声をあげる人、涙を出

す人、又、手をとりあつたり、みんな大喜びでした。

聞かせてもらっているだけで感動です。それにしても、大森さんが加悦谷高校合唱部に入られたきっかけは？

大森「中学二年生の時、合唱団の定期演奏会を視聴して、どうしても入りたいたいと思いました。」

お父さん、お母さんのご理解とお力添えがあつたればこそ、今日まで立派にやつて来られたのですね。感謝してられるでしょう。

大森「はい、そう思っています。」

(素敵に優しい微笑)

ウィーンから帰られた後も色々演奏会などで忙しかつたと思いますが――

大森「十一月二十八日は加悦谷高校で、十二月十九日は宮津会館で、十二月二十四日は岩滝町の府立与謝の海病院で演奏して皆さんに聞いて頂きました。」

これまでも演奏されてい

たんでしよう。

大森「夏休みに、小学校や中学校へ出向いて巡回演奏会をしていました。十校行きました。歌うのは二十曲程です。童歌とか、叙情歌などです。」

素晴らしい合唱を聞かせてもらう小・中学生さんは幸せですね。これからは？

大森「三年生は十二月二十四日の演奏会を終了した時点で引退します。二年生、一年生は一月から練習を始めます。」

いろんなことを聞かせてもらって一番大変だと思ふことはドイツ語、ラテン語、ハンガリー語、などを習得して歌うということですが――

大森「はい、先生も真剣です。去年は、地元ウィーンに滞在されて直接に発声、発音などの勉強をされました。」

そして部員さんに、細部にわたつての指導されるんですね。何度も何度も――

大森「はい、努力しました。本番

でも、練習の時と同じように歌うことが出来ました。」

本当に頭が下がります。有難うございました。

あとで、この快挙のビデオを視聴しました。

校内での発声練習、ウィーンホテルでの練習の様子、そして本番は美しい会場での見事な合唱風景、歌い終わった場内の聴衆の「ブラボー」の大歓声。加えて鳴りやまぬ大拍手にこたえて、退場しかけたところをまた、後戻りしてアンコール曲を歌う部員達の姿。

審査員の講評、賞状を受けられ、握手をされる指揮者の毛利先生、にこやかな美人のピアノ伴奏の尾張先生、みんなみんな満開の花のように、爽やかな風のように、そして知的に全身の力をこめた歌の世界が生き生きと輝いていました。

この世界一の歌声を聴かれた丹後をはじめ、内外の多くの

人々の心に、美しいエネルギーを与えて下さった鮮やかな存在感とその清々しさ。合唱がもつ厚み深みが聴く人を感動的に包みこんでしまう大きな力。この素晴らしさに満ちたハレの合唱部の大森様と皆様に乾杯！

ここに至るまで指導された先生と部員の歌うことへの強い意志と真摯な生活態度。苦しみを乗り越えて日々繰り返される練習活動。個人のわがままを極力おさえて達成した三冠。

学校教育の荒廃、教師と生徒の信頼関係等々、困難な問題も報じられる社会の中で、こんなにも信じあい、協力する生き方があることを示して下さいました。部に敬意を表したいと思ひます。世界に共通する音楽が、いつか「世界の平和」に繋がっていくことを希いつつ、栄ある合唱部の未来に一層の光あれとお祈りして筆を擱きます。

由良に住んで四十年

思い出すままに(四)

四方 寿朗

由良小学校校舎建築の歴史

昨今登校拒否やいじめなど学

校では、昔は考えられなかった

ような、いろいろな問題が起き

ている。一方世界に目を転じる

と、後進国では貧困その他で学

校へ行きたくても行けない子供

が実に多いと聞く。

物質的な豊かさだけを求めて

つつ走った戦後の日本。果たし

てこれが本当に良かったのだろ

うか。

私は今回、由良小学校の設立

並びに今日までの校舎の増改築

の経過を調べるため、学校沿革

誌を見せていただいて、改めて

先人達の由良小学校への愛情に

ある種の感動を覚えた。如何に

多くを後輩たちに期待していた

か。若い皆さんはどうか心して

以下の記録を読んでください。

明治六年

創立、初めて小学

校を設置し松原寺

内禅堂を校舎に使

用す

明治一〇年

現在地を買収し

(三二四六坪)校舎新

築成る

明治一二年

校舎一棟増築

明治三二年

校地拡張

(七四坪)

明治三六年

校地拡張

(二二五坪)

明治三七年

校舎一棟建築

明治三九年

校地拡張

(二六〇坪)

明治四〇年

校地拡張

(一一二坪)

明治四一年

校舎三教室増築

工費二四八八円

義務教育六ヶ年に

延長高等科を併置

し由良尋常高等小
学校と称す

明治四二年 校舎三教室建築

澤井市造氏一五〇

〇円寄付さる

石垣の柵を設く

明治四五年 校地拡張九七坪

大正一一年五月二五日

火災の厄に逢い校舎一棟を残し

備品書類の全部を焼失御真影は

無事奉遷今や学校沿革の概要す

ら知る由なし

校舎再建略記

学校当事者の困惑は言うまで

もなく村民又途方にくれ施す術

を知らざりき

然るに各方面の厚き同情は村

民をして学校第一教育第一に目

覚めしめ即ち禍を転じて福とな

すは此の機にありと。茲に時勢

に順応する校舎再建並に備品の

整備を企画し而も校舎建築によ

る負債を後代に残し村政運用上

支障をきたさんを慮り奮然決起

建築費全部を寄付行為によるの

議をまとめ村民にはかる。村民
各自財力以上の負担を甘んじ之
が再建に着手すると共に郷外本

村出身者又奮つて此の事業を援

助せられ、茲に校舎の竣工備品

の復旧運動場の拡張をみ国民教

育上支障なきまでに至れり。左

に校舎再建経過を略記せんに

火災当日午後四時議員区長の

総集会を開き五教室一棟を九月

末日までに建築するの議をまと

め直ちに建築委員を囑託す

翌に二六日建築委員の一人は

郡衙を訪ねて教育の前後策を協

議しそのあしで福知山町に建築

設計士の伊木熊蔵氏を訪ひ学校

建築設計を依頼せり。

校舎の構造については鉄筋コ

ンクリート二階建築或は木造平

屋建築案等論議され、又校舎配

置など数回協議を重ね其の間管

理者並びに建築委員は遠近の他

校の視察をなす。或は郡当局の

意見を叩き寝食を忘れて東奔西

走実に十数回案の変更をみると

共に、一方経済方面に於ても議

員区長の総集会を開く事数次遂に次の結果を見た

工事を第一期第二期に区分し第一期を旧校舎移転、校地拡張四教室の一棟並に雨天体操場一棟児童便所一棟を建築とし、第二期を奉安殿一棟四教室一棟並びに職員室事務室一棟使丁室一棟の建築予定とし

第一期工事は大正一一年七月起工同年一二月竣工の間に学制頒布五〇周年記念事業とし屋外運動場の拡張を行い第二期工事竣工までに奉安殿建設並に職員事務室建築に特別寄付者のありて多少時日の遷延をみたるも、校舎は当初の計画より完備に近くなるに至れり。第二期工事は大正一一年一二月起工、大正一二年一二月竣工

建築費校具備品その他経費総額拾万九千八百八拾円拾壹銭也

夫役 壹千六百参拾名

校地総坪数貳千六百九拾七坪

内

校舎敷地 一四二四坪

屋外運動場 一八五〇坪
校舎総建坪 六三〇坪延

大正一三年 校地拡張—運動場
昭和 六年 小室桑蔵氏より土地壹千坪の寄付を受く、これを特別教室及び運動場の敷地に充当す

昭和三八年 校舎の老朽化が目立ち、学校改築準備委員会発足

昭和四〇年 位置は現校地に決定

昭和四二年 校舎四九〇坪、体育館一二〇坪程度鉄筋構造にするこ

昭和四三年 工事に着手
昭和四四年 工事完成
昭和四六年 幼稚園完成

昭和四三年 工事に着手
昭和四四年 工事完成
昭和四六年 幼稚園完成

体育館完成

由良小学校建築委員

員会解散

金額	坪と	負担	元
570万円	53坪	53坪	53坪
348万円	29坪	29坪	29坪
335万円	29坪	29坪	29坪
52.3万円			
305.3万円	1,305.3坪		

坪数	円
490	51,400,000
120	23,700,000
98	11,350,000
	3,828,310
	523,000
	90,801,310
	5,315,250
	1,760,975
	24,628
	523,000
	8,000,000
	15,623,800

舎館園品付計
校育稚品寄
一般幼稚現合

以上学校沿革誌からの抜粋である。最終的な建築坪数及び収支を私の手持ちの資料から右に表記する。

学校創立以来大火その他いろいろの困難を克服して、その時々の人々が由良の将来のために学校へ注いだ愛情がひしひしと感

じられる。但し火事の原因についての記

録は見当たらない。私は昭和四一年四月から建築委員の末席に居たので当時の記憶を二三補足する。

校舎を駅裏へという構想もあつたが、跡地の利用や鉄道踏切の安全性などで中止となつた。旧校舎玄関にあつた立派な石のバルコニーを残したかつたが経費の関係で止むなく断念した。校舎については将来の教育の多様に備えて、地元負担で基準の余分に二教室増やした。体育館も基準ではバレーボールも出来ないもので二九坪広くした。現在の幼稚園の位置には昔村役場が建つていた。改築当時は公民館と市の出張所に使用していたがこれを壊して農協東のカトリック教会を一時借用し、幼稚園を建てた。これも基準より二九坪増やした。

ある日の委員会、見学して来た網野の島津小学校に比べて由良小学校の防音設備の貧弱さが指摘された。それに答えて事

務局長であった〇教頭が「その他にも我々の理想に程遠い個所は幾らでもある」と発言したところ、時の委員長（自治連合会長）が「委員会がこれだけ懸命に努力しているのに、この上何文句を言うのか」と激怒し、次の移動で転勤となられた。当時はお別れする先生を由良駅へ区民が見送りする習わしであったが、遂に教頭は姿を見せられなかった。それ程委員がみんな真剣であったということである。

竣工式後もいろいろ問題が起きた。体育館を各種の会合に使用する際、マイクの音声は壁に反響して、殆ど聞き取れなかった。試行錯誤の未拡声器をラッパ型に変え、方向をいろいろ変化させて何とか間に合わせた。

体育館の床板が直ぐ湿気を吸って持ち上がり、所々波をうちだした。生木を急速に乾燥させた結果である。部分的に削っては釘で止め、補修をしたが辛抱しきれなくて、先年現在の美

しい床となった。

校舎の廊下のコンクリートの表面から粉が舞い上がり粉塵公害を呈した。上から塗料を塗ってやつと現在の状態となった。因に施工は金下建設であった。

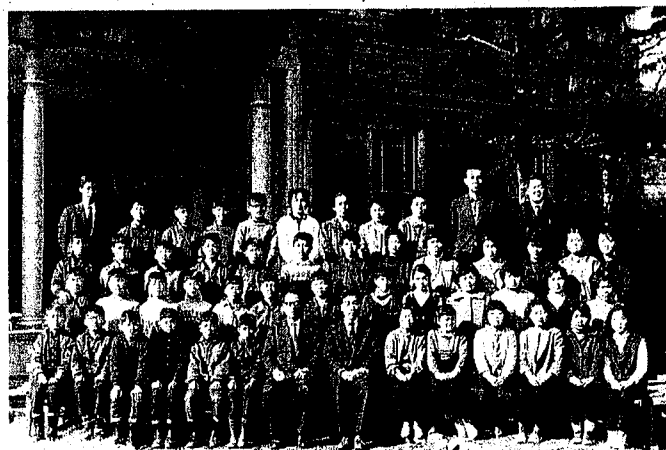
改築で最大の問題は、言うまでもなく資金調達であった。先人の汗の結晶である由良岳中腹の官公造林の一部が入札に掛けられ、峰山の田中製材が二、八三万余円で落札した。この二分の一が由良の取り分となるが、将来に備えて後地の植林その後の草刈り等の経費を残すと、学校改築に支出出来るのは八〇〇万円となった。地区内外からの寄付金七一〇万円余、これに現品による寄付五二、三万円を加えると地元の負担額は総計一三〇五万余円となる。今から三〇年前であることを考えると頭の下がる思いがする。

昭和四六年五月由良スポーツサークルが誕生し今も健在である。そして夜の体育館は剣道、卓

球、バレーボール、バドミントンなどを楽しむ地区民で賑わった。

最後に私が最も残念に思う事は、由良に伝わった古い文書や資料の喪失である。学校改築で役場の隣の立派な石蔵を壊した際、中に保存されていた資料が全部持ち出されて処分された。市の職員は余分な事は考えてくれない。全く取り返しのつかないことをしてしまった。これは我々地区民が意識して守らねばならぬ物だった。過去の歴史の上に現在また未来は成立する。せめて過去の事実を正確に後世に伝える資料を残すことは、現代人の義務であり愛情であると思う。正に痛恨の極みである。

あれから早や三〇年、「学ぶ我等に望あり」との校歌の歌詞にも先人の期待が窺える。若い人たちは先輩のこの熱い思いを胆に銘じて、来たるべき新しい時代に向かってたゆまぬ努力を続けて行つて欲しい。由良地区のために、世界のために。



昭和三十七年度

編集後記

明けまして

おめでとうございます

我が国初め世界の国々で、コンピュータの誤作動問題で、揺れて明けた二千年。

景気も徐々に上向いていると言う二千年が、明るい希望の持てる年であることを願いたいと思います。

昨年は、長い間雨で中止となっていた、自治連合会と共催の地区大運動会。

好天に恵まれ、幼少児童の全面参加、実業会のバザーと運動会を盛り上げていただき、無事開催出来ましたことを、心より厚くお礼申し上げます。

新しい年を迎え、公民館も次の行事を予定しています。

地区内放送・回覧等で通知をさせていただきます、お一人でも多くのご参加をお願いします。

二月の行事 自治学級

生涯学習講座

(婦人会共催)

新しい年、西暦二千年を迎え皆様のご多幸とご健勝をお祈り申し上げます。

酒田

天王山のお宮



人権標語

ともだちの

手と手をむすんで

新世紀

宮津小学校

いっしょにあそぼう

みんなであそぼう

由良小学校

止められる

あなたの勇気でそのいじめ

宮津中学校

